

10年ぶりの快挙 西原東中女子バレー



西原東中学校女子バレー部が、4月に開催された第57回全国沖縄中学校選手権大会で、フルセットまでもつれる大接戦を制し、10年ぶり2度目の優勝を飾りました。

最終セットでは最大4点差を追う展開でしたが、城間歩美主将は「最後まで諦めずに全員バレーで逆転し、優勝することができ、とても嬉しいですよ」と喜びを語りました。上間町長は「日ごろの練習の成果と諦めない気持ちで勝ち取った優勝おめでとうございませ」と健闘をたたえました。

尚家23代当主が 来町



(写真左:尚氏)

尚円王統(第2)第23代当主である尚衛氏(尚)が、平成27年度に実施した西原町尚円王生誕600年記念事業に感銘を受け、尚円王ゆかりの地である西原町を来訪しました。上間町長は来町したことに感謝の意を述べた後「西原町尚円王生誕600年記念事業報告書」のほか内閣御殿や尚円王に関する図録を寄贈しました。

今後は、内閣御殿と深い関わりを持つ尚家と交流を図り、相互の信頼関係を築いていくことで「町の歴史文化の継承及びまちづくり、ひとつの推進」につながることを期待されます。

※西原町では平成32年度に尚円王即位550年記念事業を予定しています。

西原南小で 不審者対策



避難のようす



さすまたでおさえる

不審者対応避難訓練が、5月31日に西原南小学校で行われました。

突然ペランダから不審者が侵入した教室の担任は、すぐに児童を教室から逃がし、机や椅子で不審者の行動をさまたげ、また救援にかけつけた男性教員はさすまたで不審者を押さえました。児童は「おかしもち(おさない・かけない・しゃべらない)もどらない・ちかよらない」の決まりを守り、先生の指示に従い、静かに避難していました。

島田小那覇交番長は「すばやくできていた良かった」と児童をほめていました。

にしはらっ子、 なぎなたで大活躍



5月14日に与那原町で開催された与那原町長旗杯争奪第34回沖縄県小学生中学生なぎなた大会で、西原町の児童が各部門で3位以内に入る優秀な成績を収めました。

【個人試合】小学校4年生の部1位:宮平奈沙(西原小4年)、小学校5年生の部1位:瀬長拓夢(西原小5年)

【演技競技】小学校1・2年生の部1位:瀬底芽依(坂田小2年)

桃原で防災訓練



炊出訓練

避難訓練

桃原自治会による防災訓練が、6月4日に行われました。集中豪雨により土砂災害の危険が発生しているとの想定のもと、115名の区民が桃原構造改善センターへ避難し、喜屋武副区長が避難者の確認を行いました。また、アルファ米を使った炊出訓練も行われました。区長は訓練を通じ防災力を向上し、自主防災組織の結成に向け取り組みたいと述べました。

西原町内には自主防災組織が10団体あり、防災意識の向上や災害時の対応方法などの習得を目的として、日ごろから災害時の備えに向けた取り組みを行っています。



水道に対する理解と関心を高め、水資源の大切さを呼びかけることを目的として、西原町と西原町管工事協同組合(宮良高副理事長)の共催による節水パレードが、6月1日に行われました。町民に水の大切さを呼びかける看板やのぼりをつけた車で町内を走り、節水をアピールしました。

宮良理事長は「限りある水資源の大切さを伝えるため、パレードをはじめ各事業に取り組みます」と述べました。

※タイトルは平成29年度水道週間スローガンです

あたりまえ そんなみどり だからこの

子どもの心 目を傾けて



三好清凡(沖縄女子学園園長)を講師に招いた家庭教育講演会(テーマ:子どもの心に目を傾けて。ガラスのような子どもたち)の心の中、今一度考えてみませんか?が、5月17日にさわふじ未来ホールで開かれました。

三好さんは法務教官、法務省矯正局などで勤めてきた経験から「小さな変化でも気にしてください。そばで話を聞いただけでも、子どもたちは心を開きます」と語りました。参加者から「子どもたちを正しく導くためにはどうしたらいいかを、ともに考える機会となりました」と感想がありました。

文化財 表面からではわからない 埋蔵文化財



現在、西原町内には二十九ヶ所の埋蔵文化財(遺跡)が分布しています。

しかし、埋蔵文化財はその名のとおり土地に埋まっている文化財であることから、町内にはいまだ発見されていない埋蔵文化財が数多く残されていると考えられます。

実際に、町内の各地で約三百年前から約百年前の間に利用されていたと考えられる古墓群が工事中に発見されています。

その一例ですが、小波津団地北西部の斜面地で五基の古墓(※1)が発見されました。

発見されたこれらの墓は、砂岩(※2)の地に横穴を掘って造られており、人骨が納められている器(蔵骨器)も確認されています。

また、文字ははつきりしませんが、銘書(※3)が記されている蔵骨器も確認されました。

さらに、墓室内からは銅製の簪や指輪、古銭などの副葬品(死者に添えて納める品物)も出土しています。

これら古墓群の調査で得られた情報は、本町の近世期から近代期にかけての墓の造り方や人の死にまつわる慣習を知る上で、

とても貴重な資料となります。

ちなみに、埋蔵文化財は古墓だけでなく、塚や集落跡、城跡など種類はさまざまです。これらの埋蔵文化財を本町教育委員会に未確認のまま誤って壊してしまうと、文化財保護法に反し、先人たちが残した地域の歴史を知る貴重な手がかりを失ってしまいます。

町内で地面や斜面を掘る工事を計画しているみなさま、その土地の文化財の有無について、事前に余裕をもって文化財係まで確認してくださいますようご協力お願いします。

※1 遺跡名「小波津後原古墓群B地点」
※2 砂粒が固まってできた岩石。ザラザラした感触。方言名は「ニビ」。
※3 蔵骨器に亡くなった方の名前や亡くなった年などの情報が記されたもの。



字小波津で発見された古墓



古墓の墓室内の状況

お問い合わせ 教育部 生涯学習課 文化財係 ☎九四四・四九九八